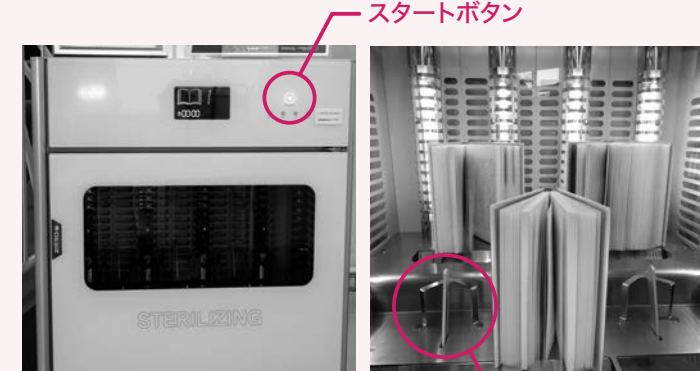


LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

ブックシャワーをご活用ください。

図書館の本や雑誌に紫外線と風を当てる機械です。今年4月にリニューアルし、一度に6冊まで使用できるようになりました。



- 《使用方法》
- 扉を開けます。
 - 本を開いた状態で固定バーに立て掛けます。
 - 扉を閉じてスタートボタンにタッチします。
 - 30秒で完了です。本を取り出して扉を閉めてください。
- ※千代田区立図書館の本や雑誌以外には使用しないでください。
※貴重書など一部ご利用できない場合があります。

展示 PICK UP

■ 3Fグリーンゾーン【哲学・歴史・自然科学】の本を集めたゾーン ~9/16(金)

緑の本棚



古代エジプトでは緑は生命や復活を象徴する色であり、現代の私たちの日常では安全を示すシンボルにも使われています。また興味深いことに、日本では「青々とした」という表現があり、青と緑が同一視されることもありました。見る者の気持ちを穏やかにし、安心感を与える緑とは一体どのような色なのでしょう。この展示でその答えを是非探してみてください。



癒しや腐敗など緑の正反対のイメージを比較できるコーナー



『1は赤い。そして世界は緑と青でできている。』
●望月 菜南子 著
●飛鳥新社 ●2020年



『はらぺこあおむし』
●エリック・カール 作
●もりひさし 訳
●偕成社 ●1989年

8月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 「江戸・東京入門」(~9/16) NEW!
パープルゾーンでは地域資料として東京・江戸についての資料を集めています。入門となるものからマニアックなものまで多種揃えていますが、今回は持ち運びしやすい新書と文庫をご紹介します。移動時間やスキマ時間に楽しんでいただければ幸いです。

2F パープルゾーン 三角台 「まだ見ぬ世界へ」(~9/16) NEW!
コロナ下から徐々に日常を取り戻しつつあるとはいえ、まだまだ自由にどこへでも行けるわけではありません。そこで、紀行文や冒険小説、写真集など旅にまつわる資料を展示し、簡単には行けない場所や、未知の世界への旅を疑似体験していただけます。

3F ブルーゾーン 「深夜感覚 真夜中から夜明け」(~10/14)
深夜だからこそ話したいこと、食べたくなるもの、観たくなる映画。そんな真夜中の特別な感覚を「深夜感覚」として表現し、本を集めました。皆さんの「深夜感覚」と照らし合わせて楽しんでいただきたい展示です。

3F グリーンゾーン 「緑の本棚」(~9/16)

猛暑の夏を乗り切るためのおすすめ本4選

今年は異例の早さで梅雨明けし、6月から記録的な暑さとなりました。そんな夏を乗り切るための助けとなりそうな本をご紹介します。

- 『40℃超えの日本列島でヒトは生きていけるのか』
●永島 計 著
●化学同人
●2019年
- 『いのちを守る気象学』
●青木 孝 著
●岩波書店
●2003年
- 『枕と寝具の科学』
●久保田 博南・五田市 哲雄 著
●日刊工業新聞社
●2017年
- 『ひんやりヘルシー冷たいスープ』
●東條 真千子 著
●日東書院本社
●2009年

予告

【日比谷図書文化館 特別展】

学年誌100年と玉井力三
—描かれた昭和の子ども—

日本独自の出版文化である児童雑誌「学年誌」。その発行部数が最も多かった1950年代から70年代にかけて、表紙画を手がけたのが、玉井力三です。その名前はご存じなくても、その絵にはきっと見覚えがあるはず。流行や世相を反映した姿の男の子と女の子が、笑顔で表紙を飾る。そんなスタイルは、玉井によって完成形に達しました。玉井の描く子どもたちの表情は実に生き生きとしており、時代の象徴に彩られた表紙全体からは、あの頃の日本の元気さを感じ取ることができます。初めての学年別学習雑誌『小学五年生』と『小学六年生』の創刊から100年。本展では、玉井力三の表紙画を中心に、学年誌の100年を追いかけます。出版文化を担ってきたここ千代田区で、児童雑誌という一つのメディアを通じて、子どもたちを取り巻いてきた文化の追体験をお楽しみください。



『自画像』油彩、カンヴァス、16.1×22.7cm 1970年代

【玉井力三(たまいきさむら)】
1908年新潟県柿崎村(現・上越市柿崎区)生まれ。1928年より「太平洋画会」にて中村不折に師事。同会講師を経て、満洲国新京美術院助教授。戦後は洋画家として「示現会」に所属。人物画を得意とし、小学館ほかの学習雑誌で25年にわたって表紙画を描き続けた。

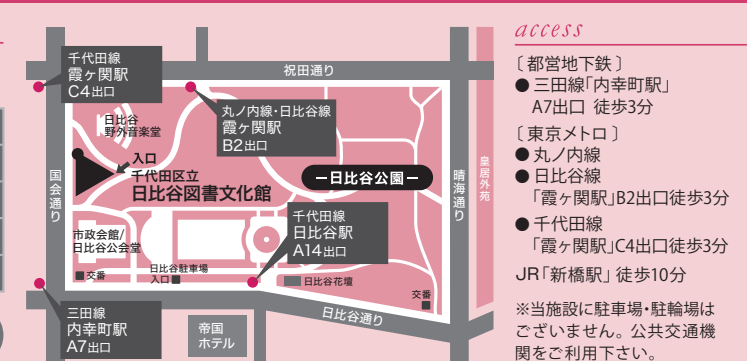
『小学一年生』(1964年11月号)と玉井力三による表紙原画

9月16日(金)~11月15日(火)
※休館日:9月19日(月・祝)、10月17日(月)

◎開室時間:月~木・土10:00~19:00、金10:00~20:00、日・祝10:00~17:00(入室は開室の30分前まで)
◎会場:日比谷図書文化館1階特別展示室 ◎観覧料:一般300円、大学・高校生200円(千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方1名は無料)※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。
◎主催:日比谷図書文化館 ◎特別協力:小学館 ◎協力:(一財)日本児童教育振興財団 ◎玉井力三応援団団長:山下裕二
関連講座の情報は中面をご覧ください▶▶

calendar 開館時間:平日10時~22時 土曜10時~19時 日祝10時~17時 休館日

2022年 8月							2022年 9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	



掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。

▶▶▶入館の際は、手指消毒・検温、マスク着用のご協力をお願いいたします。

8・9月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

8/2 (火) 他
 <日比谷オペラ塾>
ジェンダー視点から見るモーツァルト(全2回)
 講師: 森岡 実穂(中央大学経済学部教授)

2つのモーツァルトのオペラを題材に、オペラ演出を見る上で役立つ基本的なジェンダーに関する視点を学び、それが作品解釈にどういった拡がりを与えているかを検証します。
 (主催: フェニーチェ劇場友の会、共催: 日比谷図書文化館)



ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

- 日時: 前編:「家族」を最小単位として～『魔笛』と家父長制の力 8月2日(火) 19:00～20:30(18:30開場)
- 後編:「女はみんなこうあるべき」?～『コジ・ファン・トゥッテ』と性規範 8月17日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 各回60名 ■ 参加費: 各回1500円
- ※2月13日(日)・27日(日)の講座が延期されたものです。

8/20 (土)
 古書で紐解く近現代史セミナー第41回
コスモポリタン・ハルビン
 —ハ爾濱の近代をたどる—

講師: 長谷川 怜(皇學館大学文学部国史学科 助教)
 19世紀末、ロシアによる東清鉄道建設に伴って満洲(中国東北部)に建設されたハ爾濱(ハルビン)は、交通の要衝であり、また北満洲の経済の中心地でした。アールヌーヴォー風の建築に彩られたコスモポリタンなこの街の歴史をロシア・中国・日本の3か国との関わりに着目し、多数の画像を用いながら解説します。

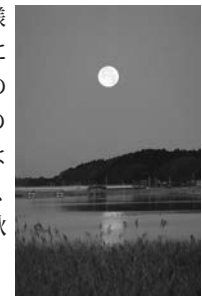


ハ爾濱 ソフィスカヤ聖堂(個人蔵)

- 日時: 8月20日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■ 定員: 100名
- 参加費: 1000円(千代田区民・学生500円)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

9/1 (木)
 星のソムリエ星空教室
第1回「月をみる」

講師: 皆川 敏春(星のソムリエ®みたか)、北崎 直子(星のソムリエ®みたか)
 このごろ、夜空を見上げていますか? お月様の形、覚えていますか? 月は毎日形を変え、日に日に顔を出すのが遅くなりながらも見るものの心を癒してくれる。人類にとって、たったひとつの衛星ですが、日本人の生活の中にある月の数は世界一多いのかもしれない。新月、満月、上弦、下弦。中秋の名月に十五夜、十三夜。これからの秋の夜長、のんびり月のこと、考えてみませんか?



撮影: 皆川敏春

- 日時: 9月1日(木) 19:00～21:00(18:30開場)
- 会場: 4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員: 40名 ■ 参加費: 1000円

<参加申込>電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座は事前申込み順です。定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

9/2 (金)
時をかけて、映画音楽の歴史の旅へ
 ～チャップリンから現在まで、映画と音楽の素敵な関係～

講師: 志田 一穂(ラジオDJ)

サイレント映画からトーキー映画へと映画に歴史があるように、映画音楽にも時代と共に変化してきた流れがあります。オーケストラやジャズやソウル、ロックなど、それらは時代の動きによって巧みに進化しながらも、多くの傑作を残してきました。映画音楽はかく語りき。往年の名画から近代の作品まで、その歴史を巡る旅へ、実際に映画音楽を聴きながら、解説と共にご案内します。



- 日時: 9月2日(金) 19:00～20:30
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 200名 ■ 参加費: 1000円

9/24 (土)
 千代田区民講座
ハチ ～私たちの食生活を支える小さな農夫さん

講師: 阿部 宣男(理学博士)

私たちが食しているトマト・ナス・イチゴ・メロン・サクランボ・ブルーベリーなどは、ハチが授粉しています。しかし、そのほとんどが輸入されている特定外来生物のセイヨウオオマルハナバチです。これを、在来種に転換して、クロマルハナバチに使用することが必要です。より環境にやさしい、安心安全な農業のあり方をお話しします。(主催: NPO法人 神田雑学大学、共催: 日比谷図書文化館)

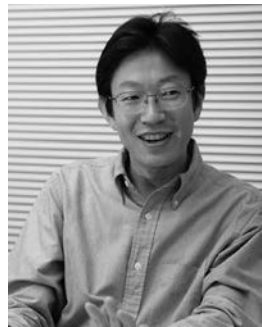


- 日時: 9月24日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 60名 ■ 参加費: 無料 ※千代田区民は8月20日(土)から、区民以外は8月27日(土)から受付開始。

9/29 (木)
漢字と植物の微妙な関係
 ～牧野植物学へと至る道～

講師: 円満 二郎(フリーライター)

日本植物学の父、牧野富太郎は、植物を表す漢字の中には日本語と中国語で異なる植物を指すものがあることを、よく指摘しています。では、そういう違いはなぜ生じ、どのようなきっかけで意識されるようになったのでしょうか? 漢字と植物をめぐる奮闘の歴史をたどります。



- 日時: 9月29日(木) 14:00～15:30 (13:30開場)
- 会場: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員: 200名
- 参加費: 1000円

▶▶▶8月31日(水)10時～受付開始!

《特別展》**学年誌100年と玉井力三**
 —描かれた昭和の子ども— 関連講座

9/23 (金・祝)
商業美術家の逆襲 —玉井力三の場合

学年誌の表紙画を25年描き続けてきた画家・玉井力三の魅力に迫ります。

- 日時: 9月23日(金・祝) 14:00～15:30(13:30開場)
- 講師: 山下 裕二(美術家、明治学院大学教授)

10/22 (土)
表紙と付録で振り返る 学年別学習雑誌の100年

小学館の学年誌の元編集者が学年誌や児童文化の変遷をお話します。

- 日時: 10月22日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)
- 講師: 野上 暁(児童文学・文化評論家)



組み立て付録「光る太陽のとう」(1970年)

- <各回共通>
- 会場: 地下1階日比谷コンベンションホール(大ホール) ■ 定員: 200名
- 参加費: 1000円(千代田区民500円)

特別研究室 ● 企画展示

100年後も手に取れる本に
 ～内田嘉吉文庫修復報告2022～

2021年度、日比谷図書文化館特別研究室は内田嘉吉文庫を中心に22点の所蔵資料の修復を行いました。19世紀の大型地図書や戦前期の旅行案内、折本の写真集など様々な種類の資料が安心して手に取れるよう修復されました。書籍修復家による創意工夫を凝らした修復過程の記録を公開し、修復された資料を展示します。



『南満洲鉄道株式会社三十年略史』(南満洲鉄道株式会社編/1937年)

- 主な展示図書
- 『朝鮮鉄道史 第一巻』(1929年)
- 『南満州鉄道三十年略史』(1937年) 『太平洋問題』(1927年)
- 『Struggles and experiences of a neutral volunteer 2』(1872年)ほか
- 期間: 開催中～9月30日(金) ※会期中展示替えがあります。 ※休館日: 8月15日(月)、9月19日(月・祝)
- 開室時間: 平日10:00～20:00、土曜10:00～18:00、日曜・祝日10:00～16:00
- 会場: 4階特別研究室 ● 入場無料

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

調べもの戦隊
レファレンジャー

本探しの助っ人「レファレンジャー」が今年もやってきます! お子様の自由研究や工作、読書感想文用の本など、夏休みの宿題に役立つ本を、レファレンジャーと一緒に探します。お気軽にお声がけくださいね!(事前申込不要)



8月23日(火)10時～受付開始
 ※開講日は順次ホームページでお知らせします。

◆予告◆
古文書塾てらこや2022年9月開講講座



古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学んでいただける「古文書塾てらこや」。多種多様な講座を開講します。

【入門コース】(全5回)

	講座名	曜日・時間
1	古文書のいろは 筆字のくずし字	(月) 10:30～
2		(月) 13:30～
3		(火) 10:30～
4		(木) 13:30～
5		(金) 13:30～
6		(金) 18:30～
7	いろはの次 — 大江戸大変	(月) 18:30～
8	いろはの次 — 古文書いろいろ(午前クラス)	(火) 10:30～
9	いろはの次 — 古文書いろいろ(午後クラス)	(火) 13:30～

【本科コース】(全5回)

10	文人画と碑文—掛軸を読む	(日) 13:30～
11	武家文書を読む—幕府崩壊事情	(水) 13:30～
12	くずし字で楽しむ江戸歌舞伎	(土) 13:00～

【特別講座】(全5回)

13	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～
14	京都上七軒、花街の座敷唄	(土) 10:30～
15	幕末・江戸庶民の世相を読む—「弘化雑記」の世界	(木) 10:30～
16	江戸を楽しむ—江戸の寺社あれこれ	(木) 18:30～
17	江戸・明治の書状を読む—形式と内容、一歩から	(金) 18:30～

【特設 月1回コース】(全3回)

18	『源氏物語 若紫』を読む【翻字者育成講座】	(金) 14:00～
19	『源氏物語 若紫』を読む【異文を楽しむ講座】※	(金) 11:00～

- 会場: 4階スタジオプラス(小ホール)、4階セミナールーム(会議室)
- 定員: 各23名(事前申込順)
- 参加費: 【入門コース】【本科コース】各回3,360円(全5回 合計16,800円。別途資料代500円) 【特別講座】各回2,730円(全5回 合計13,650円。別途資料代500円) 【特設 月1回コース】【翻字者育成講座】各回3,360円(全3回 合計10,080円。別途資料代300円) 【異文を楽しむ講座】各回2,730円(全3回 合計8,190円。別途資料代300円)

※【特設 月1回コース】には別途テキスト 国文学研究資料館蔵『源氏物語 若紫』(税込1,540円 2016年 新典社)が必要です。(当館でのご用意も承ります。)
 ※受講料は各回でのお支払い(現金のみ)をお願いいたします。なおテキスト代は、初回に一括でお支払いとなります。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により変更となる場合があります。

【子どもの読書相談】
 宿題や自由研究の調べもの、読書感想文に適した本をお子様と一緒に探します。

【保護者の読書相談】
 読み聞かせ方法や絵本の選び方など、読書に関する相談を承ります。

- 千代田図書館10階 児童書コーナー
 会期: 開催中～8月31日(水) 各日午前9時～午後5時
 休館日: 7月24日(日)・8月28日(日)
- 四番町図書館2階 児童室
 会期: 8月18日(木)～8月21日(日)
 各日午前10時～午後5時

